

かわむら **こども** クリニック NEWS

Volume 6 No 2

5 5 号

平成10年 2月 1日

発行 かわむらこどもクリニック 022-271-5255 HOMEPAGE <http://www.ifnet.or.jp/kazu.k/>

お陰様で5周年

お陰様で、今月20日で満5周年になります。すこしこの五年間を振り返ってみたいと思います。

開業は一般には、地元の病院に勤務して、その後ということが多いものです。しかし小生は日に長い間勤務して、突然仙台での開業でした。平成5年開業時は、患者さんの来ない毎日でした。真冬なのに、それこそ10人、20人の世界でした。40人を超えたときにスタッフ一同とお祝いしたことを、今でも鮮明に思い出されます。受付の加藤君は、唯一開業以来のスタッフです。“お母さんの不安や心配の解消”を開業理念に示し、初めの頃は時間も有り余りお母さん達とはとても長く話したものでした。

そのころの時間的余裕と開業理念を患者さんに示す一つの方法として、平成5年6月から『かわむらこどもクリニックNEWS』を発刊しました。今月号で55号にやっとたどり着いた状況です。また仙台市内は小児科も多く周りに内科小児科の先生も多いため、従来で同じでは競争していけないという観点からもこの院内報が産まれたわけです。平成5年10月からは、朝日新聞県内版「朝日ウイル」に、子供の病気や症状の対処法を短く解説した『小児科ミニ知識』の連載を始め、現在48回の連載を続け

ています。

その後少しずつ当院の存在が理解され、次第に患者さんが増え始めた平成6年6月、何とA型肝炎で1カ月半も入院することになってしまいました。診療の方は何とか国立病院小児科の手助けもあり、ほとんど穴も開けず続けることが出来ました。しっかり者の中米君は、小生が入院中から一生懸命働いていてくれました。院長が入院中の病院で働くことの不安は、彼女しか分からない事だったでしょう。一方入院している小生はと言うと、病初期の苦しさを乗り越えると、後は静養と開業に対する不安の間でジレンマの連続でした。入院はもちろん初めてでしたが、そのことで学んだことは、入院しないで済むにこした事はないということです。それから当院の患者さんでも、なるべく外来でしっかり管理（時には外来での点滴が4～5日も続くこともあります）し、出来るだけ入院しないで済むように努力しています。入院は一度経験すると、二度としたくないと思う私だけでしょうか。

また平成6年度から県教育委員会の家庭教育充実事業（現・家庭教育子育て推進事業）でテレビ部会（平成8年からはテレビ部長）に属し、テレビでもお会いできるようになりました。この四年間で、『こんなときどうするの?』、『予防接種が変わりました』、『ぶつぶつのでる病気』、『お熱ってなあに?』、『あっ あぶない』、『個性とは? しつけとは?』、『子どもの病気 うそほんと?』の七卒を担当しました。この事業は、テレビだけでなくパンフレットや巡回相談など様々な方向で、育児支援を行っています。

開業時から患者さんの声を反映させるため、投書箱を設置していることは皆さん御存知のことと思います。今回5周年のこともあり、今までの投書をもう一



度見直してみました。総数は100通を越え、お褒めの言葉・お叱りの言葉・病院への提案・お母さん達の経験等々頂きました。現在通院中のお母さんや転居したお母さん達のその頃の姿が懐かしく思われ、思わず読みふけてしまいました。読んでいてお母さん達の感性には本当に感心させられます。こんなお母さん達の投書、機会があったら紹介しようと思っています。

平成8年1月からはインターネットでホームページを開設しました。この時期でのホームページの開設は珍しく、もちろん宮城県の開業医では一番目で、全国的に見ても小児科では草分け的な存在でした。ホームページの記事は院内報と小児科ミニ知識が中心で、医療相談も行っています。ホームページも院内報と同じで、ある意味ではボランティアとして行っているわけです。アクセス数は24,000名を越し、医療相談数は400件を越えています。医療相談は全国各地から寄せられ、もちろん無料で回答しています。また電子メールでは、かかりつけの患者さんからの報告や相談も来ています。別な意味でのホームページを開設するメリットは、開業医ながら名前が売れるということでしょうか。本当は誰かがホームページを見ていて、こんなことをやってる医者があるのか、それならばと仕事が回ってくることになるのです。ホームページを開設してから、全国誌の“私の赤ちゃん”、“ひよこクラブ”から執筆の依頼が来るようになりました。また“すてきな奥さん”、“DOORS”、“日経ヘルス”、“ホットチャンネル(仙台放送)”でホームページが紹介されました。このようなことがまた次のことを呼ぶのだと思います。名前が売れるからといって、開業に直接的なメリットではありません。せいぜい“私のかかっている先生が本に載っているとかがテレビに出ている”という程度です。院内報やホームページを



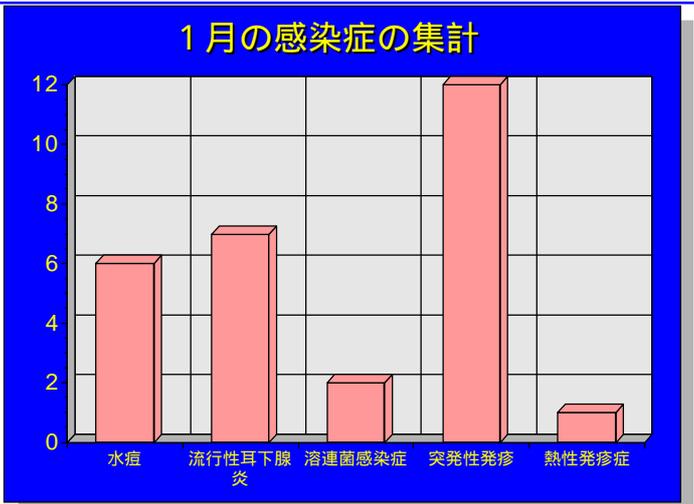
ボランティアとして行っている立場からは、そういった評価(お母さん達からの投書も含めて)は、夫々を続けていくうえでの大きな自己満足を生んでくれるものなのです。今年になっても、つい先日“日経ネットナビ”、2月には“インターネット生活ひろがる便利ガイド”に掲載される予定です。

またスタッフのことでは、このしばらくの間いろいろ悩みました。投書で「転勤があるのですか」と言われたぐらいです。しかし現在何とかスタッフの数もそろい、充実した時期となっています。人というのが最も難しいのは、育児を含めどんな状況でも同じことでしょう。やっとスタッフが馴れてきたところです。この時期を堺にして、もっとよい医療に持っていきたいと思います。また五周年に当たり、「お母さんクラブ」開設を準備中です。これで従来の病院には無いような、お母さんとスタッフそして院長の新しい関係を築いくことにチャレンジしたいと思っています。

反省もあります。たまたま小児科医会とか保険医協会の理事やオープン病院の幹事を務めていたり、新しい知識を得るためなるべく勉強会に出席するために、ほとんど平日の半分は夜は不在になっています。このことでお母さん達に御迷惑をおかけしているとは思いますが、少し御理解いただければと思います。1~2月にかけて石名坂の休日当番、在宅の休日当番と続きました。こんなときは休みぐらい少しのんびりしたいと思う気持ちも御理解下さい。

何か自慢話になった帰来がありますが、新しい医療を目指している姿勢をみていただけたらと思います。長いようで短かった五年間、当院が今こうしていられるのもお母さん方始め、スタッフや周りの人々に、いろいろなところで支えられているのです。これから開業理念に沿って、お母さん達の不安や心配の解消のため努力していきたいと思っています。今までありがとうございました。そしてこれからもよろしく願いいたします。

水痘や流行性耳下腺炎は、減少傾向がみられています。溶連菌感染症はあまり多くないのですが、比較的多くみられているようです。このグラフ以外の流行としてはウイルス性の胃腸炎が目立つようになりしました。いわゆる吐いて下痢するカゼの仲間です。グラフの病気と比べるとかなり多いのですが、見にくくなるためグラフには載せていません。全体としては100名を超えています。仙台市内のインフルエンザは、1月末現在まだかなり少ないようです。しかし関東や関西で流行して、宮城県でも北部を中心に増加傾向です。ウイルスは仙台市内でも同定され、A香港型が出ています。同定されたということは、今後増えてくることが予想され、実際に高熱のカゼ(インフルエンザを疑わせるような)も少しずつ増加してきています。気を付けましょう。



インフルエンザ インフルエンザが流行しそうなので、一昨年初日ウイル(朝日新聞県内版)に掲載した説明を、載せておきます。良く読んでおきましょう。

今回は、冬になると必ず話題になる、インフルエンザのお話をしましょう。今年の冬の流行はまだですが、診察中時々“インフルエンザではありませんか”と聞かれます。この質問が医者泣かせだということを、皆さんは御存知でしょうか。

さて、どうやって診断するのでしょうか。もちろん、喉に“インフルエンザ”と書いてあるわけではありません。発熱などの症状を総合して、診断するのです。ですから、明らかな流行や家族に同じような症状がいれば比較的簡単ですが、今日初めて熱がただけという場合には、ほとんど確定診断は不可能です。

インフルエンザの症状は、流行するウイルスの型によって多少異なりますが、年長児や成人では急激な発熱・頭痛・関節痛・筋肉痛・全身倦怠などで始まり、やや遅れて鼻汁・咳嗽などがでできます。発熱は39~40の高熱のことが多く、2~3日持続しますが、長くても5日以内で熱は下がります。他に嘔吐・腹痛・下痢などの症状が見られることがあります。しかし乳幼児では、年齢的な違いや訴えが不十分な事もあって、普通のかぜと区別できない場合もよくあります。確定診断のためには、ウイルスの分離や抗体の検査がありますが、結果がでるまでに時間がかかるため、役には立ちません。園児や学童が診断を受けた場合は、出席停止となり、解熱後2日を経過するまで登校は出来なくなります。

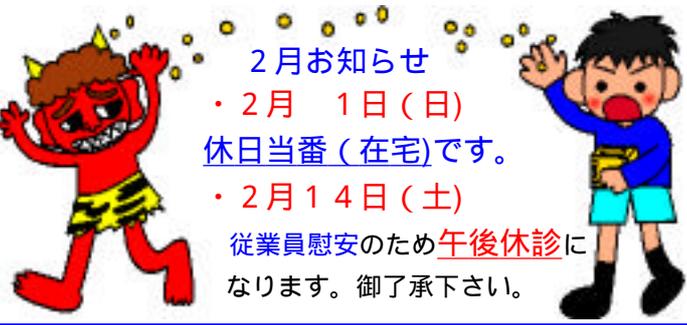


合併症としては、気管支炎・肺炎・中耳炎等があり、咳嗽の悪化や発熱の持続が特徴です。数は少ないのですが、痙攣や意識障害がみられる脳症は重症で、注意が必要です。

治療は、普通のウイルスの病気と同じように対症療法となります。予防接種は、定期接種から外れたため、あまり行われなくなりました。

一般的なかぜと同様、予防のためには手洗いやうがいを励行し、規則正しい生活リズムを守るように心掛けましょう。

以上が本文ですが、少し補足しておきましょう。今年流行しているのは、A香港型です。インフルエンザの確定は難しい部分もあり、診断する医者により変わってしまうことがあります。インフルエンザと“つけたがる、つけたがらない”によって混乱する場合があります。義務教育現場で問題になって、結局全員をインフルエンザ扱いにしたということもあります。(インフルエンザは出席停止=欠席扱いしない、カゼは欠席扱い)またインフルエンザの場合は解熱後2日間は出席できず、出席には医師の診断が必要になります。



2月お知らせ
 ・2月 1日(日)
休日当番(在宅)です。
 ・2月14日(土)
 従業員慰安のため**午後休診**になります。御了承下さい。

「お母さんクラブ」第1回会合のお知らせ
 現在約40名のお母さんの登録がありました。**第1回の会合を2月26日(木)**の午後を予定しています。詳しくは後で連絡します。
雑誌掲載の御案内(ホームページが紹介されます)
 ・『日経ネットナビ』(日経BP社)発売中
 ・『インターネット生活ひろがる便利ガイド』(PHP研究所)2/23発刊の予定

読者の広場

先月は2度の大雪と石名坂の休日当番そして在宅の休日当番と今年には当たり年になりそうです。読者の広場のコーナー95年の6月から始まりもう2年半にもなります。様々な投書いつもありがとうございます。数えてみると100通を越えています。病院に投書というのはどんな気持ちかは、受ける側からは分かりません。しかしこれほどの投書をもらっている病院は、そうそう無いと思います。このようにしてコミュニケーションを、今後ともとれたらと思います。残念ながら、スペースの都合もあり全て掲載出来ないことは御了承下さい。一面にも書きましたが、機会があれば公表したいと思います。実際にはプライバシーの問題もあり難しいかも知れません。年賀状や手紙も展示公開したいと思いますが、何しろ住所や電話番号などもありこれも難しと思います。



この場を借りてお礼をしたいことがあります。1月は例年になく大雪でした。診療開始前に迷惑をかけないように、前日の夜、当日の朝除雪を心掛けています。駐車場を含めた部分はかなり広いので、除雪に対する労力はかなりのもので、息子、家内、小生で何とかやっている状態です。さすがに2回目の大雪の時は、前日の夜に1時間、当日の朝に1時間除雪をしましたが、駐車場までは手が回らない状態でした。その折車で待っていた青葉区の佐藤さん(2人です。康太君と翼君)、石屋さんのお父さんに除雪の手伝いを頂きました。直接お礼を言えなかったので、この場を借りて感謝したいと思います。ありがとうございました。

また当院に以前かかっていて山口県に転居したKさんから年賀を兼ねてお手紙をいただきました。中米君の出産やお褒めの言葉、転居先での病院の選ぶ苦労などいろいろ書いてありました。『明けましておめでとうございます。(中略)引っ越してかかりつけのお医者様をと調べました。八ローページを見、近所の方に聞いて、子供会の方やタクシーの運転手さんまで。しかしY市には小児科が2件しかなくどちらも点滴をしないということでした。後は評判の悪い総合病院しかなく、しかたなくそちらへ紹介状を渡しました。だめですね。どうしても川村先生と比較してしまうのです。ショックが大きかったです。引っ越してもまもなくで気持ちも不安定だったこともあり、待合室で涙をこらえていたのを覚えています。(中略)あの頃何10回先生の夢を見たことでしょうか。目覚めて「あーもっと先生話をしたかった」と残念に思っていたことを覚えています。(中略)毎月いただいていた新聞、今でも医学書代わりに活用させていただいています。感謝。先生それはそれはお忙しいと毎日と思います。お身体を大切にかかわらこどもクリニックに通える仙台に皆さまが羨しいです。失礼いたします。』折り返し当院から励ましの手紙とその後の新聞をお送りしました。『先生、中米さんお返事をいただいてしまいありがとうございました。新聞まで...驚いて感激して言葉にならないほど嬉しいです。ありがとうございました。先生のおっしゃる様に現実を受け止め私なりに前向きに歩いていこうと思います。“どこにいてもうちの患者”嬉しい先生の優しいお言葉、頑張ります。(中略)お手紙新聞宝物です。ありがとうございました。』との返事を頂きました。今後とも離れても、お母さん達との繋がりを大切にしていきたいと思います。



もう一つ初めての点滴を経験した、SANAちゃんのお母さんより健康の大切さを痛感したという投書を頂いたの紹介します。『先日娘は点滴を4本しました。午前10時から夕方6時ごろまで、ずっと小さな手に点滴針をさしたままです。1歳1カ月の娘にとってとてもつらかったと思います。(親の私も、じっとさせていなければならぬので、とても大変でした。)途中お腹が痛いらしく激しく泣いたので、浣腸をしました。私が娘を押さえつける役(?)をしたのですが、「もうこれ以上やめて!!」といった表情で泣いている娘を見て、なぜか涙がでたんですね。元気なときはそれが当たりまえと思い、食べないと言っては叱り、いたずらをしては叱り、ちょっとぐずっただけでも叱っていたばかりいた私。ちょっとぐらい泣き虫でいたずらっ子だっていい、ごはんを残してもいい、今回、病気をして痛々しい娘の姿を見て、つくづくそう思いました。やっぱり健康が一番!。今は、とても娘をいとおしく思っています。はやく良くなって、また元気に公園で一緒に遊びたいです。』もちろんこの後SANAちゃんが元気になったのは言うまでもありません。重い病気にかかるとは、普段誰も思っていない。しかしかかることもあるのです。病気になって点滴などの治療を受けることは、子供だけでなく親御さんにとっても大変なことです。まして入院となると、これがまた何日も続いてしまうのです。一日中、場合に

よっては2~3日も点滴を続けることがあり
ます。ただ辛い悲しいと思うでなく、お母さん
がこのように考えてあげられればSANA
ちゃんは幸せなはずです。この経験をプラス
の方向にもって行ってあげてください。

他にも常連のTさんからも2通頂きました。内容は載せられませんが、いつれ「お母さんクラブ」でも検討してみましょ

編集後記

もう5年も経ってしまいました。なんらかの進歩はあったと確信しています。しかし次の5年で同ような進歩という、なかなか困難な気がします。この号の新聞、また欲張りすぎて読みにくくなってしまいました。これも直していかなければ。五周年記念のテレカ作りしました、欲しい人に抽選で差し上げます。投書箱に名前、住所、電話番号、テレカ欲しいと書いて入れて下さい。

